

令和2年（2020年）8月9日

中堅として学校により良い コンサルテーションを提供するには



春原 千夏

（兵庫県・伊丹市・神戸市

スクールカウンセラー）

スクールカウンセラーのお仕事

個人面接

- ・ 個人面接は習ってきたこと
(児童生徒・保護者面接)

- ・ 心理教育は知識の伝達
(教職員研修・
教育プログラム)

心理教育

コンサル
テーション

- ・ コンサルテーション
≡ ソーシャルワーク??

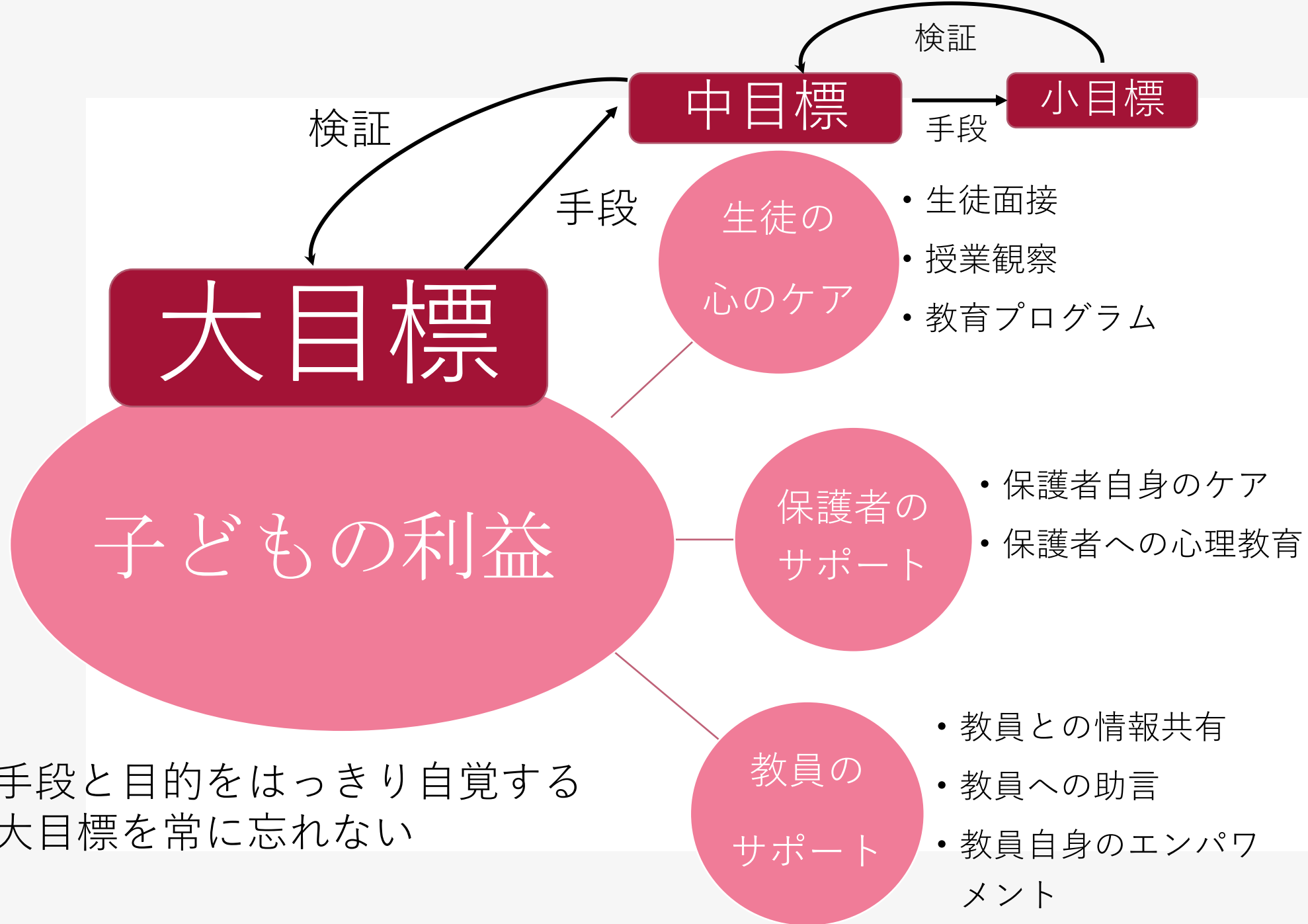
そもそもコンサルテーションって？

- ◆ 「コンサルテーションとは、異なる専門性をもつ複数の者が、援助対象である問題状況について検討し、よりよい援助の在り方について話し合うプロセスをいいます。自らの専門性に基づいて他の専門家を援助する者を「コンサルタント」、そして援助を受けるものを「コンサルティ」と呼んでいます」
- ◆ 「学校コンサルテーションの内容としては、(1)知識の提供、(2)精神的な支え、(3)新しい視点の提示、(4)ネットワーキングの促進、などがあります」
(国立特別支援教育総合研究所HPより)
- ◆ 学校内で行われた個人面接・授業観察の結果を先生と共有してコンサルテーションを行う
- ◆ 学校の先生は教育の専門家、スクールカウンセラーは心理や発達の専門家、お互いが専門家であり、コンサルタントとコンサルティに優劣はない。また、外部機関や保護者、地域の人などもコンサルテーションの輪の中に入ることも。

学校をアセスメントする

<どこに注目する？>

- ◆ まずどんな地域か（新興住宅地か古くからの地区か、土地の由来や文化伝統などを知る、土地価格、校区内の施設、就学支援を受けている率など）
 - 校区の地図をもらう（GoogleMapも役に立つ）実際に歩いてみる
 - 事務員さんが色々知ってたり・・・
- ◆ 着任前に学校HPを見ておく 人事異動もチェック
- ◆ 学校独自の文化伝統があれば調べておく
- ◆ 職員室の人数、雰囲気、SC担当の先生からの情報
- ◆ 校内のキーパーソン（教頭、教育相談係、養護教諭）を見つける
- ◆ 使えるところ／足をひっぱるところを見極める



- ◆手段と目的をはっきり自覚する
- ◆大目標を常に忘れない

コンサルテーションは単なる伝達ではない

- ◆ 「誰のために」「どのような目標で」「誰がどう動くか」
を検討できるように、双方向に行うもの
- ◆ 「大目標」のための「スモールステップ」を定め、定期的に検証していく仕組みを作る
(具体的に、例えば次にいつ情報共有するかを決めておく)
- ◆ 教職員の「教育の専門家」としての視点をもらってさらにSC自身のアセスメントに生かし、さらに検討事項の参考にしていく
- ◆ 「チーム学校」としてそれぞれの「良いところ」に注目が行くようにして(エンパワメント)最も効率的に組織が動くように働きかける